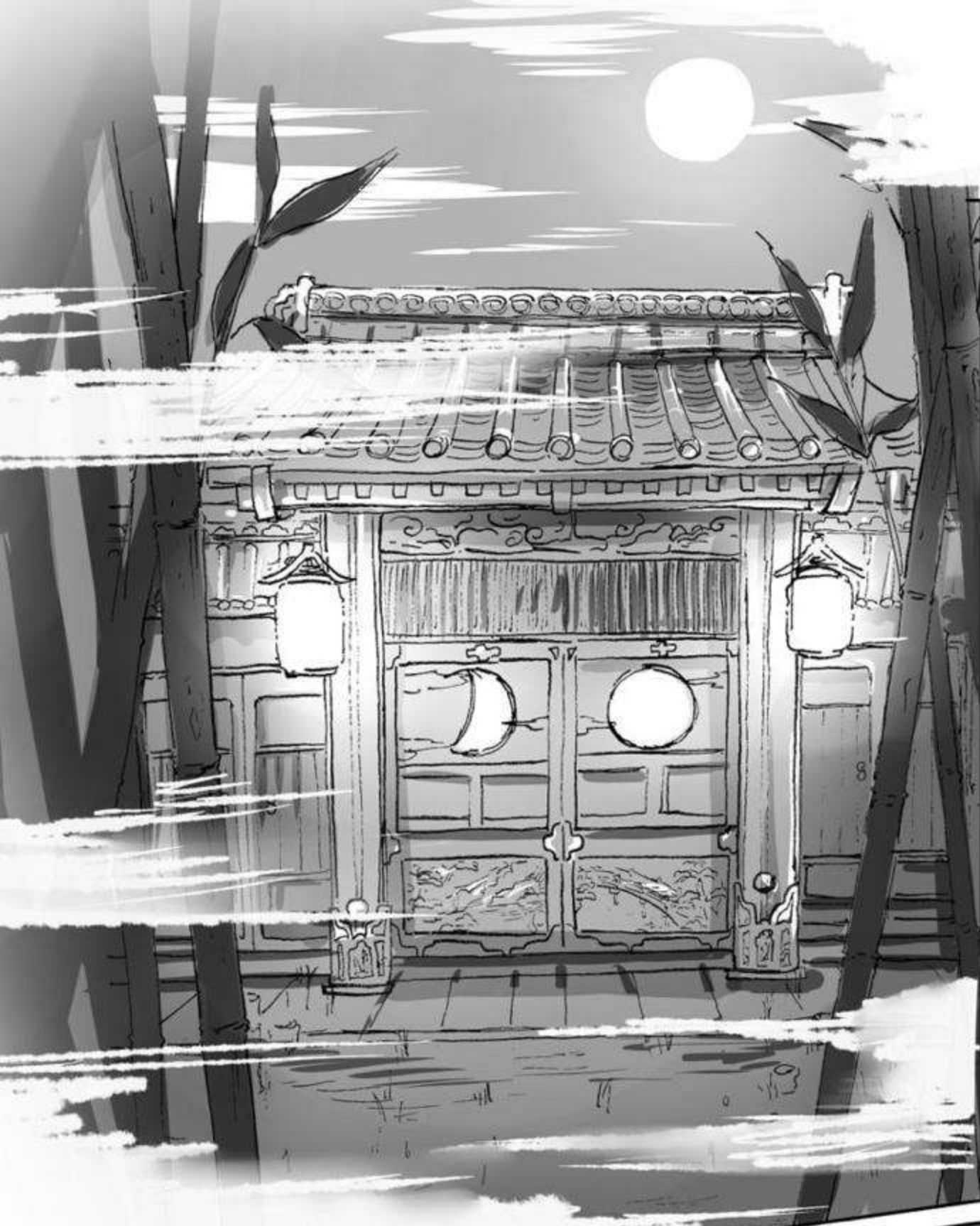


程  
よ  
い  
距  
離



R-18



満月の  
夜だから。

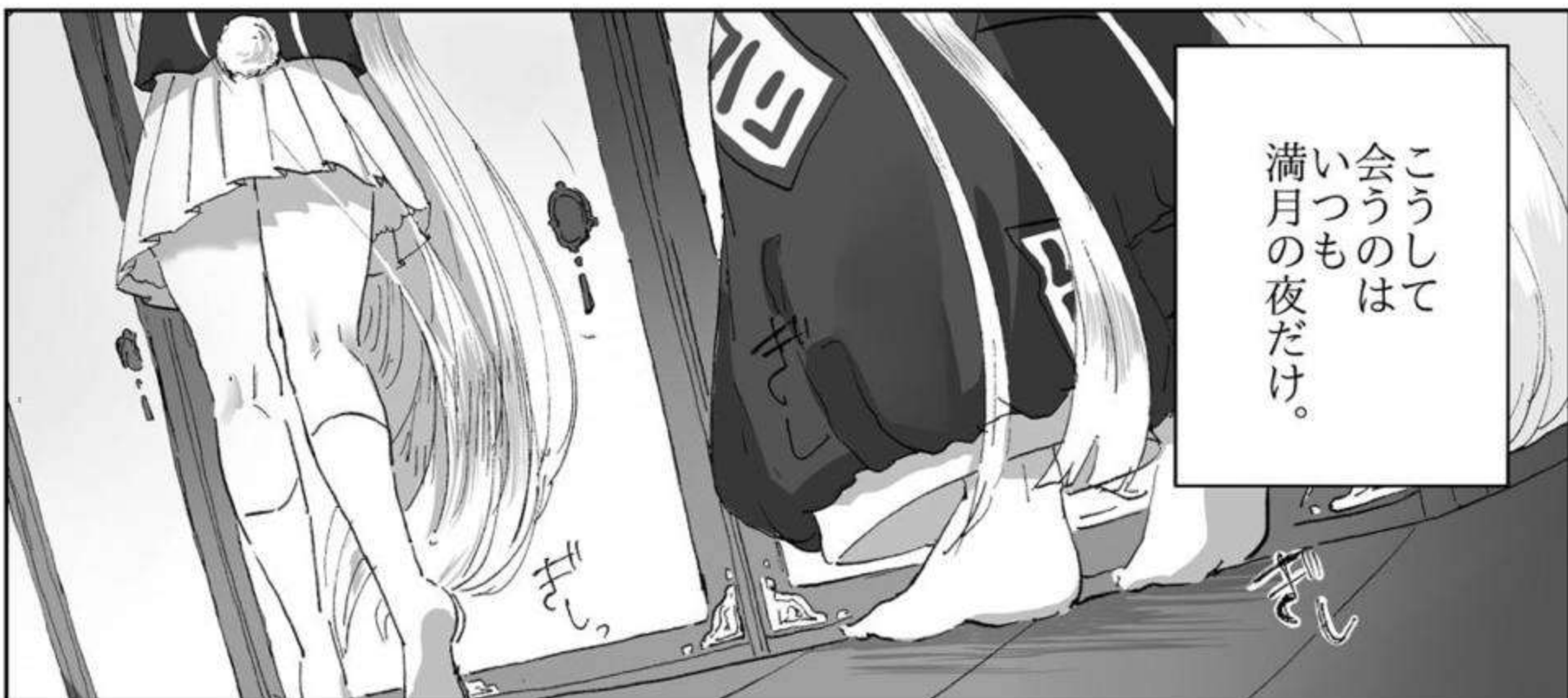


妹紅さん



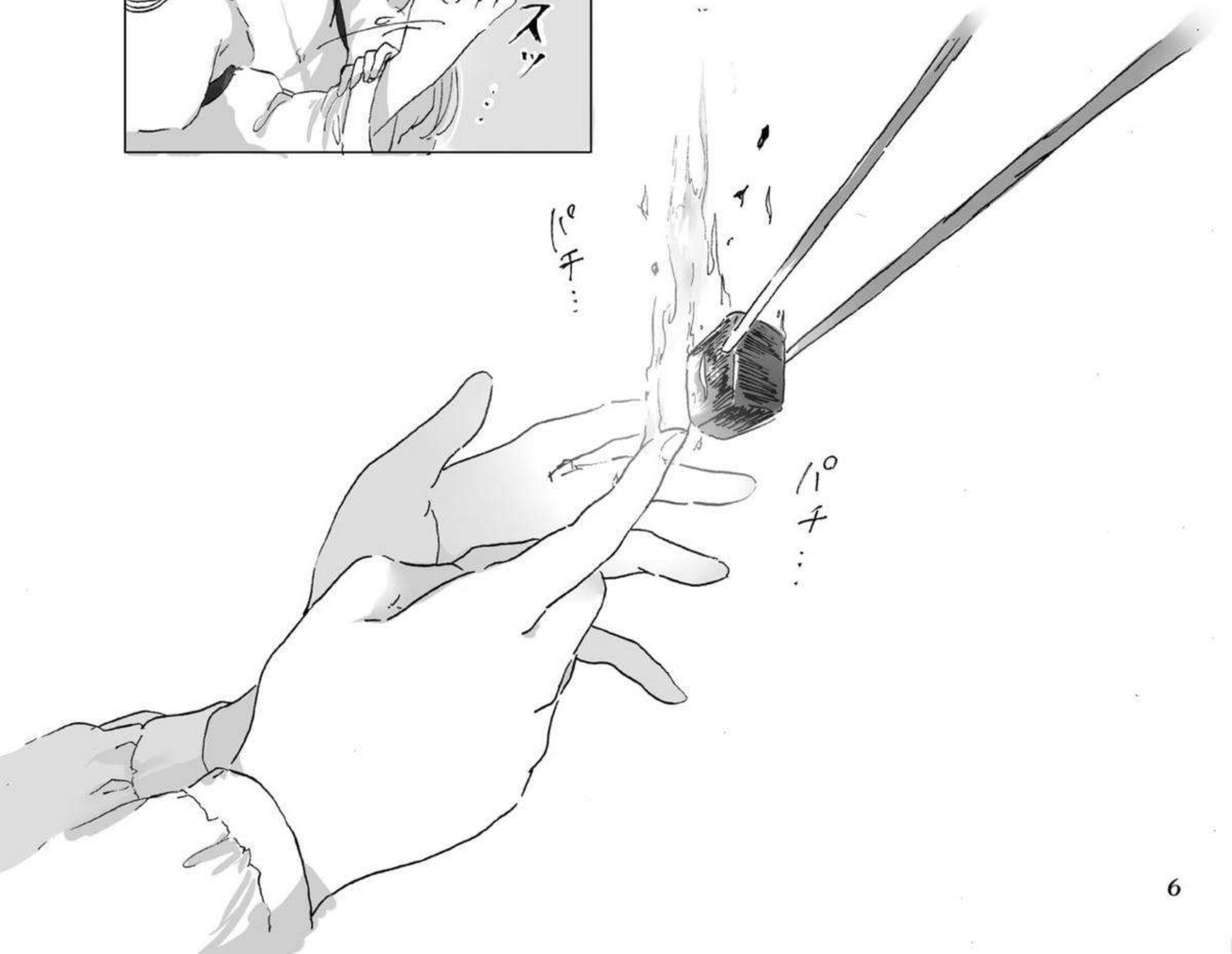
あまり屋敷から  
出られなくて  
退屈だからと

永遠亭に  
呼ばれるように  
なつたのだが  
きつかけだつた  
気がする。











炭が白く  
なるのを  
待って…

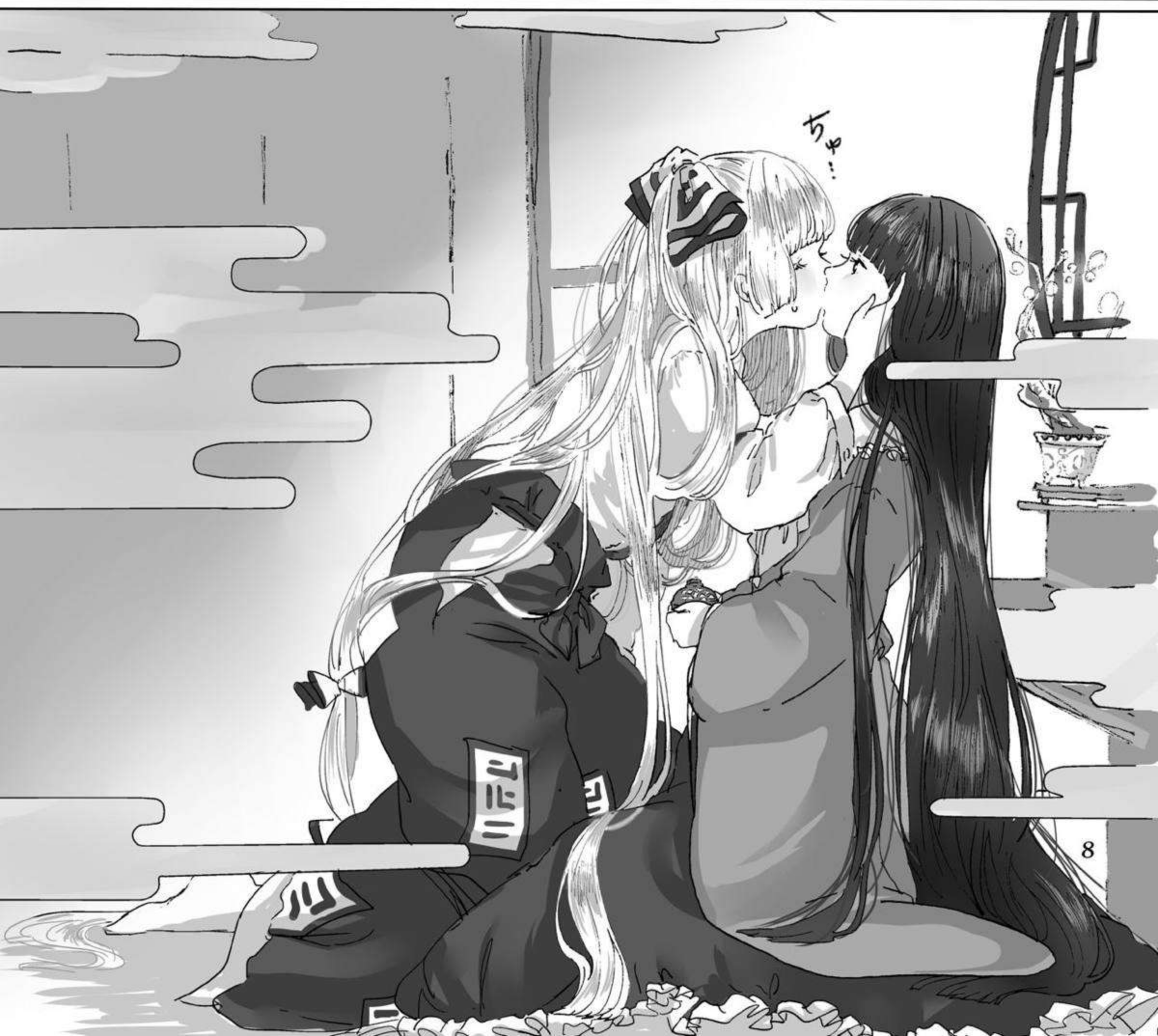
灰の中に  
埋めたら、



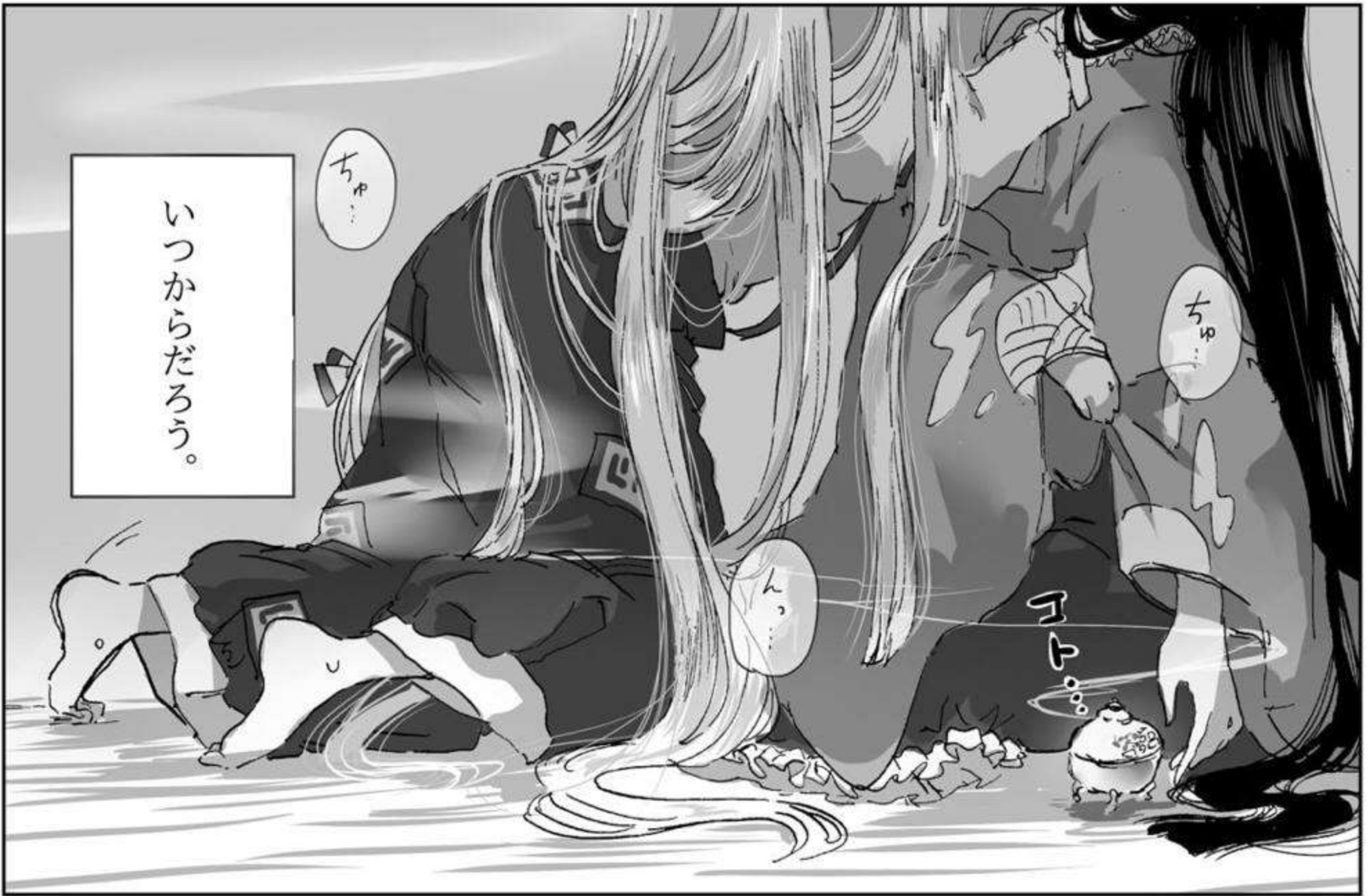
灰が  
温まった頃に  
香木を置いて。

はい。できあがり。









いつからだろう。

ちゅ...

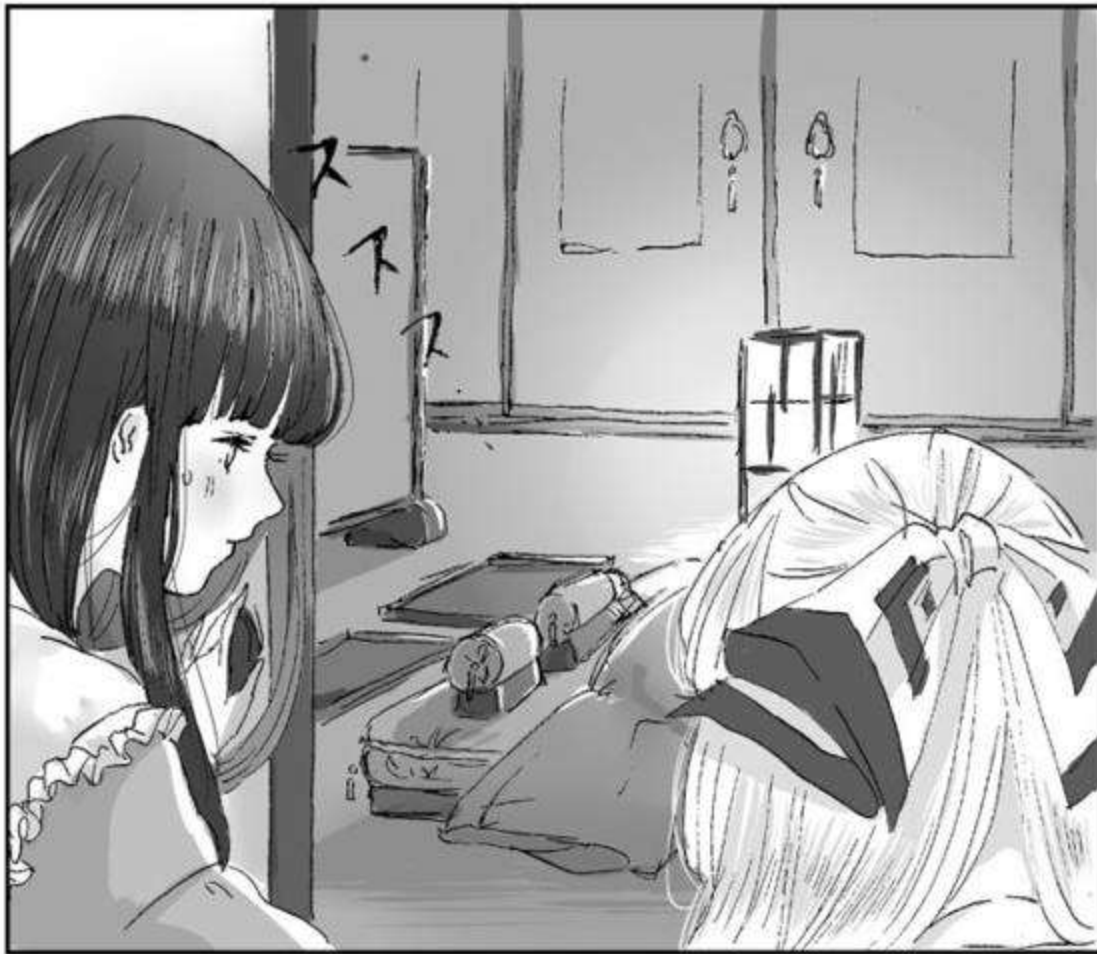
ん...

ちゅ...



地上の穢れのか。  
せいなののか。

げあ...  
せい時ののか。



好きでは無い  
筈なのに。  
憎らしい  
筈なのに。



妹紅...

心を預けている  
訳じゃない。

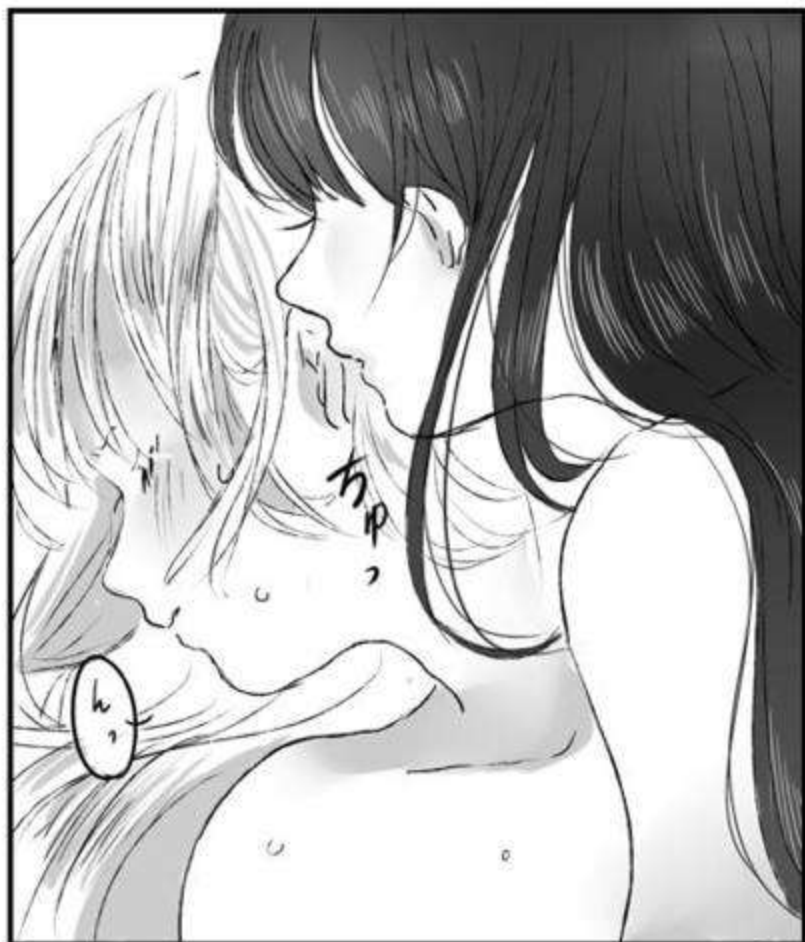
お互いに  
利用しないで  
お願いだ  
だと思っ  
つんだと





胸がドキドキ  
いつてる







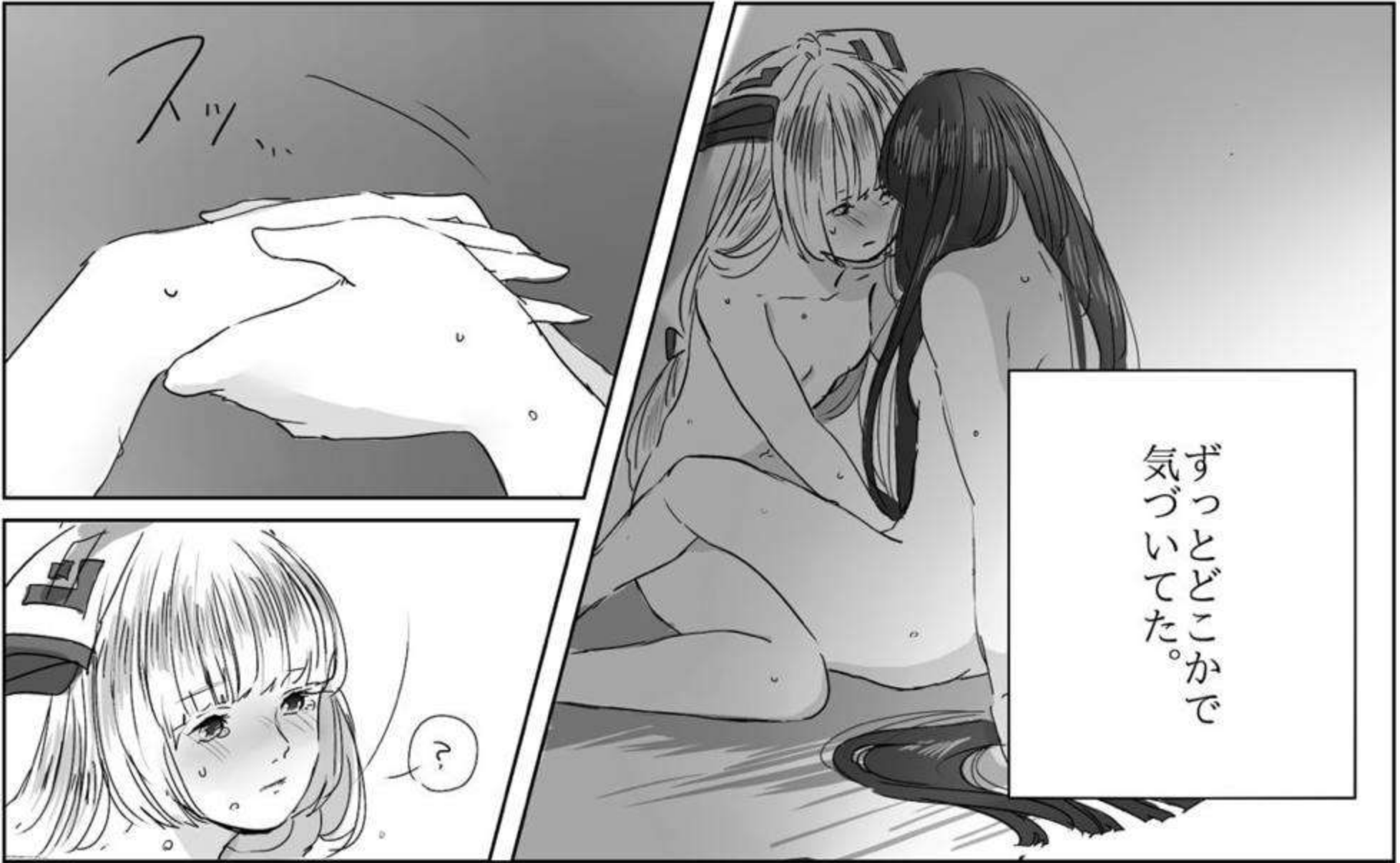
私を包む  
その髪も。



全てを感じて  
身を委ね  
たくなる



もっともっと。  
貴女を  
感じたくなる。



ずっとどこかで  
気づいてた。



妹紅...



ふっ



本当は  
貴女が愛おしくて  
堪らない。

...好き

好きだよ

好き、

輝夜

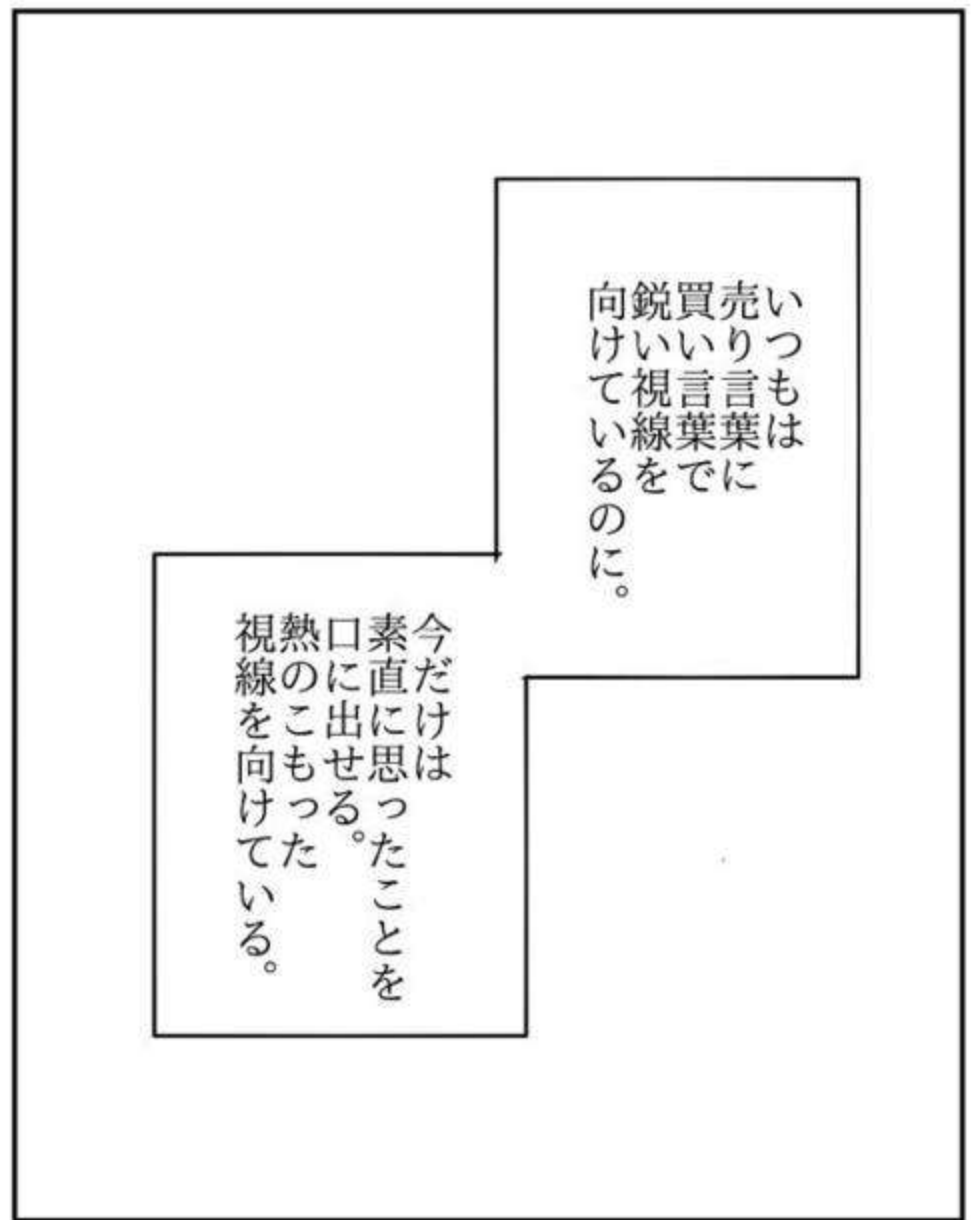


かぐや、  
すごく綺麗…

ホロ…



ありがとう…



いつもは  
言葉で  
言葉に  
鋭い視線を  
向けているのに。

今だけは  
素直に思ったことを  
口に出せる。  
熱のこもった  
視線を向けている。



かぐや

かぐや……

妹紅っ……

もう



ただ「好き」と  
その一言だけは  
口に出せずに。

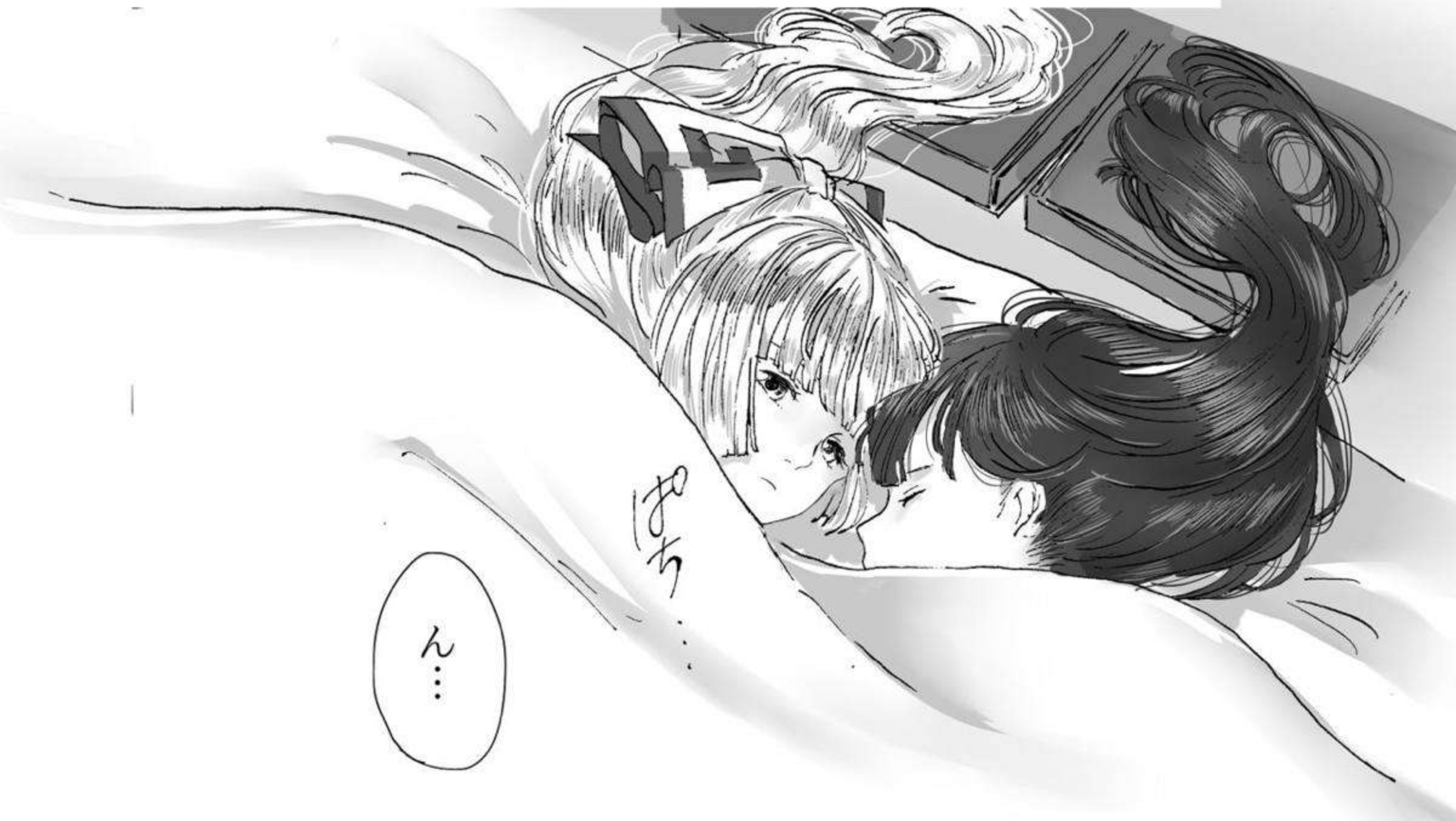
胸の苦しみを  
吐き出すように  
肌を重ねつつ。

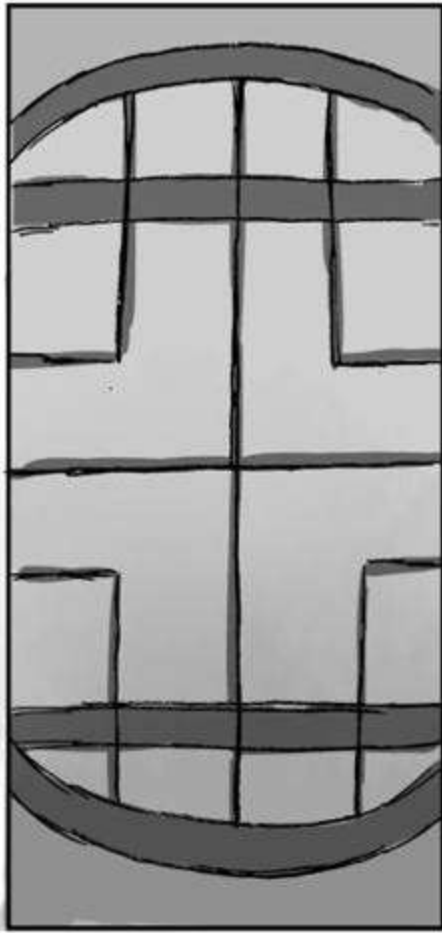


もう頭にかか  
もやがかかった  
ようになんか  
考えられない。

おめ  
おめ







洗濯までしてある…

どっか  
一瞬で乾かしたんだ

隣の寝顔を眺めながら  
昨日のこと  
思い出す。





だから空が  
青くなる頃に  
何も言わず  
そつとこの場を  
後にする。



ちゅっ

その頬に一つだけ  
口付けを  
落として。

おん...

## あとがき

お手に取ってくださりありがとうございます。  
もた子と申します。

今回は輝夜と妹紅が割と仲良くしていますが  
あまり性的な雰囲気は前面には出さたくなくて  
どうやって描いたらよいのか迷いに迷っていました。  
永遠を生きる二人特に妹紅にとっては愛や恋なんて感情で  
永遠を生きていける自信はなくて憎んでいるほうが  
ずっと永い間情念を燃やし続けられるのではないかと思います。  
けれど月に一度だけ、お互い何も言わないけれど  
寄り添う時間を設けそれでも今までどおり何も無かったように  
生きていく様が描けたらよいなと思いました。

ここまで読んで下さりありがとうございます。